

焼成, 窯

Firing, Kiln

Key-words : Kiln Making, Pottery, Handicraft

鯉江 明

Akira KOIE

筆者のやきものとの関わりは窯づくりから始まった。約20年ぶりに常滑に窯を築くという父の手伝いで、長さ約20m、高さ約1m、幅約1mほどの窯を述べ20人、主に韓国からの留学生、アメリカからの独立直後の作家と筆者の3人が2ヶ月通して穴掘りからレンガ積みまで作業した。言語も、学んだやきものも異なる中で話し合いながら、時には半日で10丁ほどしかレンガ積みが進まない日もあり苦戦したが、完成した時はとても達成感に満たされ、やきものに携わる事を決意するきっかけになった(図1)。それからの半年間は薪作り、生地づくりの手伝いや窯の修正等をしてながら初窯を迎えた。私はやきものの経験が全くなかったので、最後尾で窯詰め、窯焚きを手伝ったが、とくに実感もなく10日間が終わった。窯出しの時も皆が思うような焼けではなかった様子で一緒になって落ち込んでいた事を覚えている。しかし、その悔しさと同時に、焼成ができてこそ窯の完成だと思い、窯への執着心が芽生え、時間を見つけては野焼きや復元古窯焼成への参加、作家さんの窯焚きを手伝いながらやきものを学び始めた。現場では窯の形や窯焚きへの考え方は人それぞれであったが、作家の先輩や同世代の仲間達と一緒に作業させてもらう中で、窯だけでなく土の事やつくるという事等、やきものづくりの多くを学び、その頃から自分で生地を作って焼く事もスタートした。

無我夢中で作って焼いても当然失敗続きだったが、ちょうど同じ頃、知人の紹介で中世常滑の古窯発掘調査に参加させてもらう事になった。そこには山の斜面を掘り抜いた窯があり、その中で見つかるしっかりと焼けて残った窯壁や手跡のついたままの焼き台、そして一見粗雑に見えてもよく観ると一貫したルールに則り作られ、しっかりとした作為を感じる繊細かつ力強いやきものにすっかり魅了されてしまい、自分の生まれたこの土地で約1000年も昔に手作業だけでものづくりを目指したいと強く思い、とても大きな目標となった(図2)。その後は中世やそれ以前のやきものを中心に、観たり聞いたりした事を頼りに改めて土



図1 窯の正面。2005年頃から頻繁に焼くようになり、現在新たに築窯を企画中



図2 中世の窯跡から発掘した山茶碗。表、裏、断面から当時のつくりを観る事ができる



図3 土は水篩し、耐火度、用途、表現等に合わせて仕込む



図4 土の採取場、堆積層のため採取はしやすいが耐火度は低い。

掘りから始め、陶器工場を手伝いながら焼成方法を学んだり、窯を間仕切りして焼成回数を増やしたりしながら経験を積んできた(図3、図4)。そして窯づくり



図5 筆者制作の甕。韓国で学んだ「叩き」による甕づくりを実践

からのご縁で韓国、米国へも度々窯焚きに参加させてもらう機会があり、窯焚きへの考えを広げてくれる貴重な体験になっている。米国では長さ約30mの窯詰めに1、2ヶ月もかかる巨大な窯を手伝い、焼成時にはひとくべ毎に窯を操作しながら煙突まで炎を送る方法や炎が流れる原理を学んだ。やきものが伝統として根付いていない分、理論的、科学的な印象であった。韓国では伝統の甕を焼く窯場に行くと分業制においての窯焚きで若手が酒を呑みながら数日間、焼成の下地を行い、頃合いをみて親方が1時間足らずで窯焚きを仕上げるという合理化がされており、窯と焚き手との気持ちの距離感に驚かされた(図5)。

今回の日本遺産六古窯での関わりにおいても、他産地で土や窯について新たに知る事も多く、また自分と同じように土掘りから窯焚きまで手作業で仕事をしている方々にも出会う事で勇気をもったり、やきもの



図6 筆者制作の焼酎カップ。土の力を借りて、現代人として自分らしく

への興味をより深められそうな可能性を感じている。これからも国や地域の境を越えて窯場を行き来しながらその体験を自分の仕事に活かし、自分らしいやきものを続けていこうと思う(図6)。

筆者紹介

鯉江 明(こいへ あきら)

1978年愛知県常滑市に生まれる。1999年幼児教育学科卒業、2001年常滑市天竺無鉄砲窯築窯に参加、2002年～韓国にて築窯、窯焚き、稲刈り等の助手や復元古窯焼成参加(愛知県陶磁資料館)、2003年～「のやきをしよう」企画(同)、2004年常滑市古窯発掘調査参加、2005年うつわ菜の花にて初個展、米国にて窯修繕、窯焚きの助手、2008年「子どもとアートと遊びをつなぐ」出品(愛知県児童総合センター)、2009年「韓・中・日陶磁美術交流展」出品(韓国)、築窯助手、2011年「東海現代陶芸思考する新世代展」出品(愛知県陶磁美術館)、2012年常滑市澤田酒造酒蔵開放記念ぐいのみ4000個制作、「甕器交流プログラム」や「韓・中・日陶芸キャンプ」参加(韓国)、2014年珠洲焼検証事業参加、2015年「つちをふむ」ワークショップ企画(愛知県児童総合センター)、2018年セントジョーンズ大学アートインレジデンス招待(米国)。